

アドバイザー派遣事業実施レポート

研究団体名 中部地区協同学習研究会

実施期日 第1回 平成27年 6月29日（月曜日）

第2回 平成27年10月26日（月曜日）

実施場所 倉吉市立東中学校

アドバイザー所属・氏名 中京大学国際教養学部 学部長・教授 杉江 修治

研究主題

「協同的な学び合いを取り入れ、自ら考え、相手と伝え合い、共に高まることを喜びとする主体的学習者の育成」

第1回 中部地区協同学習研究会 授業研究会

6月29日、杉江教授をお招きし、尾川教諭による研究授業を行った。研究協議の中で杉江先生が話された中から特に印象に残った内容について以下にまとめる。

協同学習のポイント

「グループ学習＝協同学習」ではない。話し合う必然性を感じているかが大切である。仲間全員が高まることを目指す。学び合い、高め合うことは認め合い、励まし合うことにつながる。



この距離感。真剣になればこうなる

研究授業について

前時の授業の取り組みがしっかりしていたことがわかる。前時の仕分けが生きている。単元の目標はもっと練った方がよい。少々長めに書いていても生徒がねらいを理解することが大切。例題を入れてもよい。また、学習のステップに結びつきがあったらよかった。細切れになっていた。ステップの中に個人での思考を入れると良い。文化の違いより文化の共通性からアプローチしてみてもどうか。思考の練り合いこそが協同学習の醍醐味である。5人組の話し合いより4人組の方がよい。前の二人が振り返るだけすむ。そして、学級単位で協同することを意識する。新しい単元の最初の授業で単元計画を伝えると見通しを持って学習できるので安心感が生まれる。



研修のまとめより一部抜粋

思考が煮詰まってしまった生徒には教えてよい。そうしないと後でグループに参加できない。個人思考の時間に分からなくてもグループの中でわかればよい。思考の練り合いの中で煮詰まってしまうグループもある。そのときは新しい思考の視点を与えてやる。ただし、答えを教えるのではない。教師が教え始めたとたんそのグループの姿勢が悪くなる。

第2回 中部地区協同学習研究会 授業研究会

「どんな子どもを育てたいか」が見える授業を

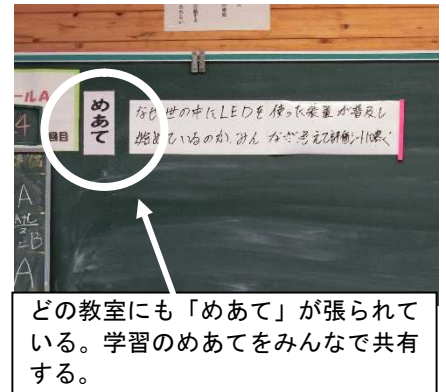
3年数学について

学習のめあて

「めあて」は明確にすべき。「クラスの誰もが、〇〇まではできるようになろう。」というめあてでもよい。学テストからの直線の問題のつながりがよく分らなかった。生徒は先生について行くしかなかった。授業中分からない子がいてはいけない、という気持ちは生徒の方がよく持っている。

話し合いについて

グループのゴールがよく分らなかった。明確だとよく動く。「自分の意見を、グループの中できちんといえるように、まずペアで話しなさい。」「まず右側の人伝える、左側の人よく聞く。次にその反対。」など具体的な指示があると良いのでは。ホワイトボード(WB)で説明することで、クラスに貢献する、という意識があれば、大きな字で書く。貼られたWBを、「見比べて下さい。自分たちのグループとどこが違うのか見つけて下さい。」と言われた。全体交流のしかけとしてよかった。グループの考えを伝えることによって、クラスのみんなに分かってもらう、高めるために発表する。



個人思考について

教科書をあまり使わなかった。教科書は一人一人のペースで読み、理解できる。だから、個人思考の際に役に立つ。教科書に書いてある解説は仕込みのため、次にそれを使って自分で考える。教科書を「読み解く」という機会を大切に。また、「分からない。」といえることも大切。もっと生徒に見通しを持たせる。

3年理科について

学習の流れ

仮説→検証、それをさせるのは意味がある。理科教育=科学教育、ということを押さえておられてよかった。指導を徹底させるという点もよかった。考察の部分、「質」に重点をおけるように。自己評価の基準を持ってから先生の所に持って行く。

学び合いについて

自由バズは生徒の動きを記録しておくといい。最大9人集まっているグループでも、全員よく話していた。大切なのは「課題意識」であって、グループサイズではないことがよく分かる。

学習意欲

終わってから、残ってレポートを書いている姿があった。意欲がある証拠。課題への関わりが強い生徒が多い場合、疑問を残したまま授業を終えて、次時の課題とすることで関心意欲の高まりにつながるができる。



学びのマップ (授業の流れ)

研修のまとめ

自分にとってのキーワードは何かを明確にする。生徒の学びを高める為には、個を高める必要がある。どうしても分からない生徒ができていくのでそういう生徒をどうやって引っ張り上げるか、その答えの1つとして協同学習がある。それを改めて学習した。先生方の個性も出していきながら、生徒の学力を上げていきたい。